

同志社大学卒業論文

2002 年度

母校を探る

西乙訓高等学校の生徒の特性

文学部 社会学科 社会学専攻

指導教授 立木茂雄 先生

学籍番号 12992049

岡本典子

目次

はじめに...P1

1 西乙訓高等学校と比較対象となる高等学校の基本情報...P1

- 1, 1 京都の公立高等学校のしくみ
- 1, 2 両高等学校に通う生徒の出身中学校
- 1, 3 両高等学校の開校時期
- 1, 4 両高等学校の規模
- 1, 5 設置されている科, および類型
- 1, 6 進路結果

2 両高等学校の「覇気」を測る...P4

- 2, 1 両高等学校の「覇気」を測る指標
- 2, 2 情報収集と分析
- 2, 3 KJ法
- 2, 4 KJ法分析結果

3 考察...P6

- 3, 1 生徒会の普段の集会
- 3, 2 両高等学校の生徒、又は生徒会が関与する行事
- 3, 3 文化祭
- 3, 4 地域に開かれた学校, 洛西高等学校
- 3, 5 両高等学校のクラブ活動
- 3, 6 両高等学校の生徒の人間関係の違い
- 3, 7 第3章まとめ

4 学校の管理と生徒の自主性...P13

- 4, 1 学校の管理
- 4, 2 生徒の自主性
- 4, 3 第4章まとめ

5 両校の管理体制を分けた政策的要因...P17

- 5, 1 両高等学校が開校した1980年代までの流れ
- 5, 2 臨教審による答申
- 5, 3 臨教審による答申と学校現場

おわりに...P22

はじめに

私は、小学1年生から、高校3年生までをととても狭い地域の中で暮らしていた。小学校、中学校と普通の地元の公立学校に通っていたが、高校も自宅から一番近いところを選んだ。自宅から自転車で3分のところにある京都府立西乙訓高等学校だった。選んだというよりは、京都の府立高校の通学圏制度により私の住んでいる大山崎町から受験できる高校の選択肢はほとんどなかったといっても過言ではない。そういうわけで、塾にも行った事なかった私が、初めて乙訓地域（向日市、長岡京市、大山崎町をまとめていう）を出て電車に乗って遠くへ通うようになったのは、高校を出て予備校に入ったときだった。それ以前から少し感じていたのだが、予備校を出、大学に入り、ある疑問がどんどん大きくなっていった。私が高校までいた世界、地域はとても特殊だったのではないかと。一言でいうと、学校の雰囲気は覇気が感じられなかったのだ。学校で反抗的な態度をとる人はいなかった。服装や髪型の乱れが目立つ事もなく、授業も静かにとりおこなわれていた。全体的にまじめで、おとなしいと言ってもいいだろう。しかし、だから思い切った行動をする人は目立つし敬遠される。個性を發揮しづらく、均質的であった。また、まじめではあるが、生徒が主体となってみんなで何かを一生懸命成し遂げるといふ事になると下手であった。生徒が主体的におこなうはずの行事はいつもいまいち盛りあがりに欠けていたように思う。その雰囲気は小学校から高校を出るまでずっと同じものを感じていたように思う。

だとしたら、乙訓地域に根ざす雰囲気なのだろうか。そもそも、この地域の生徒には本当に覇気がなかったのだろうか。その要因は何だったのか。

今回はそれを、母校の西乙訓高等学校と、第1章で詳しく述べるが、属性の類似した他地域の高等学校、京都府立洛西高等学校とを比較することにより検証していきたいと思う。洛西高等学校は開設時期、規模、類型や進路結果などの属性が西乙訓高等学校と比較的類似しているが、これもあとに述べるが、西乙訓高等学校よりも比較的広域に渡る範囲から生徒が通学している。ゆえに、この比較によって、生徒の特質の地域による差が浮き彫りになるはずであると考えた。

1 西乙訓高等学校と比較対象となる高等学校の基本的情報

1.1 京都府の公立高等学校のしくみ

京都府の公立高校の通学圏は、丹後、中丹、口丹、京都市北、京都市南、京都市西、山

城北，山城南という9つの通学圏に分かれている．それぞれ，自分の住んでいる地域が属する通学圏内にある府立学校を受験することができるが，他の通学圏の高校を受験することは，特殊な学科を除いて，普通科ではほとんど不可能である．特殊な学科とは音楽科，芸術科，園芸科などがあたる．それぞれの通学圏の中でも，細かく学区制がしかれており，例えば私の母校である大山崎町立大山崎中学校出身の学生が受験できるのは京都市西通学圏の桂，洛西，向陽，乙訓，西乙訓の5校だが，普通科では，西乙訓高等学校以外では，それぞれの高等学校の入学者数の20パーセントの枠に食い込まなければならない．ゆえに，大山崎中学校の受験生で，府立高校を目指す者はほとんどが西乙訓高等学校を受験するのである．

わが母校，西乙訓高等学校は京都市西通学圏に属し，その中でも極めて大阪に近い京都の西のはし，長岡京市に位置している．すぐ近くには大阪府との県境がある辺境の地である．比較対象とする洛西高等学校は，もう少し京都の中心に近い西京区に位置し，同じ京都市西通学圏に属する．

1.2 両高等学校に通う生徒の出身中学校

両高等学校の生徒の出身中学校を明らかにすることによって，それぞれの高等学校に通う生徒がどういった範囲の地域から通って来ているかを明らかにする．(図1，図2参照)

西乙訓高等学校の全校生徒の出身中学校は，長岡京市の全ての公立中学校4校，長岡中学校，長岡第2中学校，長岡第3中学校，長岡第4中学校と大山崎町内の唯一の公立中学校である，大山崎中学校とで90%を占めている．つまり，全校生徒の90%は長岡京市民または，大山崎町民であり，出身中学校はほぼ上記の5校に限られている事がわかる．その5校の中でも，出身生徒数の多い順の上位3校，大山崎中学校，長岡第3中学校，長岡第4中学校がほぼ70%を占めている．

一方，洛西高等学校の全校生徒それぞれの出身中学校は，京都市西京区内にある全ての公立中学校8校(洛西中学校，西陵中学校，大枝中学校，大原野中学校，檜原中学校，桂川中学校，松尾中学校，桂中学校)が90%を占めている．したがって，全校生徒の90%は西京区民といえるが，中学校の数は8校以上と，西乙訓高等学校の全校生徒の出身中学校の数に比べて多く，それぞれの中学校の出身者数の全体に対する割合もばらつきがある．

以上の事から，西乙訓高等学校は洛西高等学校に比べ，非常に狭い範囲の地域の出身者で構成されているのがわかる．

【図 1 挿入】

【図 2 挿入】

1.3 両校の開校時期

西乙訓高等学校は1984年（昭和59年）4月，洛西高等学校は1980年（昭和55年）4月に第1回目の入学式を執り行っている．西乙訓は開校して今年で18年，洛西は22年が経つ．

1.4 規模

全校生徒数は，西乙訓高等学校が837人，洛西高等学校が1224人と，約400人ほどの隔たりがある．

1.5 設置されている科，類型

京都の全ての普通科の公立高校に共通するが，両校とも例に漏れずそれぞれの学年が第1類，第2類に分かれる．志願者は入試出願の際に高校と，その高校の第1類か第2類かを選択する．

類志願者は，出願の際，理系に進むか文系に進むかも決定しなければならない．

西乙訓では，普通科のみ設置されており，第1類は第2学年から理系クラス，文系クラスに別れる．第2類には基礎学力コース（通称1類）と学力進展コース（通称1.5類）があり，入学後選択ができる．

現在，第1学年は昨年からの制度の変更を受け理系第2類クラス，文系第1類クラス，理系第1類クラス，文系第3クラスとなっている．

洛西も普通科のみの設置であり，第1類は第二学年から理系クラス，文系クラスに分かれる．第2学年から文系クラス，文系英語クラス，理系クラス，一般クラスとわかれる．第2類は上で述べたとおり，受験出願時に文系か理系に進むかを決定する．京都の公立高等学校では，園芸科，商業科，音楽科，英語科，第2部夜間など普通科の他に様々な科を設けている高校が目立つ．西乙訓高等学校と洛西高等学校は共に普通科しか設けられておらず，したがって比較的似通った形の高校という事ができる．

1.6 進路結果

2001年度卒業生の進路結果は、西乙訓高等学校は国公立大52名、私立大学263名、短期大学49名、専門学校42名、就職7名。一方、洛西高等学校は国公立31名、私立大学257名、短期大学71名、専門学校81名、就職19名(延べ人数)。卒業生全体の数は洛西の方が130名ほど多いが、進路先の内容、人数ともに、よく類似している。以下に進路結果の表を示しておく。

【表 1 挿入】

【表 2 挿入】

2 両校の「覇気」を測る

2.1 両校の「覇気」を測る指標

一言に「覇気」があるかないかといっても、感覚に頼るわけにはいかない。両校の「覇気」の度合いの比較を可能にする指標をいくつか選ぶ必要がある。今回、この指標を「学校行事の取り組み」、「クラブ活動」、の2点を中心に比較することにした。

次になぜ上記の2つの観点を指標としたかを説明する。まず「学校行事の取り組み」についてであるが、学校行事の数については週休2日制の導入もあり、どの学校もある程度制度による制約を課されているのは否めない。しかし、行事の数という条件、その行事にかけられる時間という条件はあまり変わらないとしても、限られた学校行事の限られた取り組み時間の中で、どれだけ生徒が積極性をもって入り込み、自らの手で作り上げているものがあるかという内容の部分においては比較の余地があると考えた。具体的には生徒が直接関与する年間行事の内容、それぞれの行事にどのように取り組んでいるかなどを比較する。また、その中でも特に「生徒会の活動」に注目したい。なぜなら、そもそも生徒が主体となって学校内で何か物事を行うとき、生徒会が生徒のまとめ役として中心となるはずだからである。したがって、生徒主体の取り組みの数が多ければ多いほど、また、その内容が充実していればしているほど、生徒会の活動項目は増え、多忙さが増すはずである。

2つ目に両校の「クラブ活動」を比較する。「覇気」のある学校では、クラブ活動も活発であるものとする。第1章で挙げたとおり、両校のカリキュラム、進路状況は極めて類似しており、勉強時間によるクラブ活動時間の制約という条件においては変わらない。その上で、具体的な指標として、全校生徒数に対する入部者数の比率、クラブ数、クラブの

活動内容、各種大会出場記録などを挙げ、比較するとどうだろうか。

以上2点の指標を使って比較をし、最後に全体を通してどちらが「覇気」があると言えるかを導き出したい。

2.2 情報収集と分析

母校である西乙訓高と学校と、比較対象となる洛西高等学校に、それぞれ紙面アンケートを10月下旬に実施した。その内容は学校の概要、生徒会の概要、クラブ活動の概要など、Eメールのやり取りで簡単に答えられるものとした。次に、各高等学校の生徒会を対象にインタビューを行った。西乙訓高等学校には11月21日、洛西高等学校には12月5日に直接訪問し、生徒会の普段の活動、各行事への関わり方など、両校とも全く同じ質問を行った。

また、両校を訪問した同じ日程で、西乙訓高等学校では、洛西高等学校から転任してきた教諭2名、土田先生（男性）と山根先生（女性）を対象に、洛西高等学校では西乙訓高等学校から転任してきた教諭2名、田中先生（男性）と国府先生（女性）を対象に、「両校の生徒の違い」について自由に述べていただくかたちでインタビューを行った。

生徒会、先生方を対象としたインタビューについてはKJ法で分析を行った。そのKJ法について、次にまとめる。

2.3 KJ法

ブレイン・ストーミングなどで出されたアイデアや意見、または各種の調査の現場から収集された雑多な情報を1枚ずつ小さなカードに書き込み、それらのカードの中から近い感じのするもの同士を2、3枚ずつ集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していく。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものである。以下、KJ法の基本的な手順を記しておく。

まず、最初に「探検」を行う。探検には、外部探検と内部探検とがある。外部探検とは、様々な目的による調査の現場で情報や事実を収集すること、内部探検とは、関係当事者の頭脳の中を探検することであり、各自の頭脳に蓄えられた知識や経験をブレイン・ストーミングなどによって吐き出すことである。

収集された情報は1つ1枚ずつ、小さな「カード」に書き込んでいく。この段階を「カードづくり」という。そのカード群を机の上などにディスプレイして、1枚1枚のカード

に書かれた内容を丹念に読みとっていく。そして、近い感じのカードをほんの2,3枚ずつ集め、できたカードのグループに「表札(タイトル)」をつける。色分けして書き、クリップや輪ゴムで束ねていく。カードのグループは、まず小グループを作り、次に小グループ同士で中グループを、そして中グループ同士で大グループを作っていく。

次に空間配置を行う。中グループや大グループへと組立てられて、クリップや輪ゴムで束ねられたカードの束を模造紙などの上で空間的に配置をして、姿・形をもったものにしていく。この時、「目的と手段」「原因と結果」などの“ストーリー”を意識しながら内容の近い束を近くに配置し、輪どりや棒線などでグループ同士の関係を表示し、全体が姿・形を持った図解となるようにしていく。(A型図解)。これをもとにして論文や記事などに文章化していく(川喜多 1967:)。

2.4 KJ法の分析結果

【表 3 挿入】

【表 4 挿入】

【表 5 挿入】

3 考察

3.1 生徒会のふだんの集会

まず、両校の生徒会の普段の集会の頻度は、西乙訓高等学校は必ず出席しなければならないものは週1回昼休み、洛西高等学校では、毎日昼休みに生徒会室に集まり談笑しつつ昼食をとるもの、これへの参加は任意であるが、週1回放課後は必ず出席しなければならない。

洛西高等学校のお昼の談笑には毎日ほぼ全員の役員が集まって、一緒に昼食をとっている。したがって、生徒会が集まっている時間は洛西高等学校の方が多い。西乙訓高等学校の生徒会役員12人で、人数が多い分、決まった時間以外は、なかなか全員で集まるよう召集をかけにくい、という事であった。これに比べ、洛西高等学校の生徒会は6人とほぼ半数と規模が小さいため、誰かが必要があって召集をかけるとすぐ全員で集まって話し合いをする事ができる状態にある、ということだった。以上の事から、洛西高等学校生徒会のほうが、生徒会としての活動について話し合いを持つ場がより多くとられている、といえ

るだろう。

3.2 両校の生徒または生徒会が直接関与する行事

表4に両校の年間行事とそれぞれに関しての生徒，生徒会の取り組みと一緒にまとめた。それを参照しつつ進めていきたい。【表 3 挿入】

まず，両校の生徒，生徒会が直接関与する年間行事をそれぞれあげる。西乙訓高等学校生徒会は，新入生歓迎会（4月），生徒総会（5月），総合体育大会壮行会（5月），球技大会（6月），西乙祭（9月），学校公開（10月）卒業式（3月），以上7行事に直接関与する。一方，洛西高等学校では，新入生歓迎会（4月），生徒総会（5月），文化祭（9月），オープン文化祭（9月），卒業式（3月）ボランティア（年数回），以上7行事に直接関与する。したがって，関与する行事数という観点からはどちらも同じであると言えよう。

3.1でも述べたが，西乙訓高等学校，洛西高等学校の両校は，共に府立高校であるため，学校5日制，カリキュラムなどの関係により，行事の数，行事の種類においてはさして差は見られない。しかし，それぞれの行事の内容においては顕著な違いを見せるものがある。一番の違いを見せつけたのが，両校にとっての一大ビッグイベントである「学園祭」である。この学園祭に重点をを置きつつ，それぞれの行事の内容の違いをあげ比較していく。

3.3 文化祭

両校の年間行事において，それぞれの内容に極めて顕著に差が見られたのが文化祭であった。【表 4 挿入】

両校の学園祭の名称は，西乙訓高等学校は「西乙祭」，洛西高等学校は「洛西フェスティバル」となっている。開催期間は「西乙祭」が3日間，「洛祭フェスティバル」は5日間と「洛西フェスティバル」の方が2日間長い。その理由は「西乙祭」はいわゆる学園祭であるが，「洛西フェスティバル」はこの学園祭と体育祭を同じ日程の中に組み込んで行うものだからである。「洛西フェスティバル」は「文化の部」と，「体育の部」，「オープン文化祭」というように3つの「部」からなる。「文化の部」がいわゆる「文化祭」で3日間行われ，「体育の部」がいわゆる「体育祭」で1日，「オープン文化祭」が1日だけ地域に開放される文化祭で，学校と学校外の会場を使って行われる。西乙訓高等学校では昨年まで，6月に「体育祭」を行ってきたが，今年から学校週5日制への移行に伴い，「体育祭」は廃止された。一方，もともと「洛西フェスティバル」に体育祭の日程を組み込んでいた洛西高等

学校は、今年も「洛西フェスティバル」を縮小させる事なく行った。「洛西フェスティバル」は5日間もあるにも関わらず、なぜ縮小を免れたのだろうか。それには両校の「学園祭」に対する取り組み方が大きく関係する。

両校の学園祭において、一番顕著な違いは、何をもって文化祭を盛りあげているかという点である。洛西高等学校の3年生の劇が西乙訓高等学校とは比較にならないほど完成度が高いということは、インタビューした両校を知っているどの先生の口からも聞かれた。洛西高等学校では「3年生の劇を見て、観客が泣くという事が本当にありえる」と先生の一人はいう。洛西フェスティバルでは、各クラスの出し物に非常にエネルギーが注がれる。

1, 2年生は3年生の劇に憧れ、3年生で良い作品を作る事を目指して、1年、2年と確実にステップアップを見せていく。3年生は、3年間の集大成とも言えるべき劇を通して、後輩達に伝統を語り継いでいく。一方、そういったクラスの発表の段階的な進歩は西乙訓高等学校ではあまり見られないという。今年の西乙祭では、生徒会企画が去年より数を増し、例年になく盛りあがりを見せたそう。洛西高等学校の生徒会企画と比較すると、圧倒的にその数は多い。西乙訓高等学校の生徒会企画はその数とバラエティに富んだ内容で、生徒会企画はあくまでサイドメニュー的な存在である洛西高等学校に勝っているといえる。

しかし、その内容は「未成年の主張」といったテレビ番組を模倣したもの、「鬼ごっこ」といった簡単なもので、事前に生徒会が用具などを準備しておけば、その他の参加者である生徒たちはテーマパークのように受身に楽しめるものばかりである。そういった企画は一見その場の盛りあがりを見せるかもしれないが、自分たちが一から苦労して作り上げる達成感など、そこから得るものは少ない。また、そういった企画は流行り廃りがある。先輩が自らのパフォーマンスでもって示してくれたものを後輩が見習い受け継ぐといった伝統にはなりにくい。

では、なぜ洛西高等学校の生徒は西乙訓高等学校に比べ、クラス発表に力を注ぐのか。まず、洛西フェスティバルでは、「文化の部」、「体育の部」を通して、縦割りの4つの団に分かれて、点数を競い合うという仕組みが伝統となっているという事が挙げられる。西乙訓高等学校も、各クラスの出し物を、各クラスから1名ずつ選出される委員と、何人かの教師からなる「審査委員会」の審査によって各学年ごとに優秀作品が表彰されることになってはいるが、各クラスの発表の成果が目に見える点数という形で自分の属する団の点数に加算されていく洛西高等学校に比べると、それほど競争を意識させるものにはなっていない。

また、洛西高等学校では、校内の「文化の部」のあとに行われる「オープン文化祭」で、優秀作品に選ばれた作品が、地域の人の前でも発表される。この 2 つの特徴が伝統的に各クラスの出し物のレベルを上げる主な要因となっているようだ。

このように、洛西フェスティバルは伝統的に「文化の部」「体育の部」「オープン文化祭」でひとまとめになっており、クラス発表の完成度も比較的高いので、日程を削って伝統を絶やすのには忍びないという理由から、今年も変わりなく続行された。一方、西乙訓高等学校では、以前行われていた体育祭は、「町民体育祭」型の体育祭当日参加するだけというもので、生徒会のとったアンケートの結果でも、「週休 5 日制で行事を削るなら体育祭」と生徒もあまり必要性を感じていなかった事を表す結果が出たため、廃止された。

もうひとつ、両校の学園祭で大きく違う点は、学園祭を中心となって取り組む組織「学園祭執行部」の構成と働きである。

西乙訓高等学校の場合、最初に西乙祭の日程や大まかな内容をまとめた案を「西乙祭実行委員会」が生徒会におろす。「西乙祭実行委員会」とは、保健部や生徒部といった各分掌と、各学年から 1 名ずつ選ばれた教師の組織である。それをもとに生徒会が全校生徒にアンケートを取ったりして具体的な企画を練り、提出し、それをまた「西乙祭実行委員会」が検討、指導を入れながら具体的な内容を決めていく。その上で、生徒会は文化委員に各ホームルームに持ちかえる内容をおろし、クラスでの話し合いを進めることになる。したがって、「学園祭執行部」は「西乙祭実行委員会」と生徒会、文化委員から成っている。一方、洛西高等学校の「学園祭執行部」は、こまごまと別れていて数多くの組織からなるので、表にしてまとめる。

【表 5 挿入】

表 5 によって示されるように、「学園祭執行部」は生徒からなるたくさんの組織で構成されている。西乙訓高等学校では教員からなる「西乙祭実行委員」によって、ある程度シナリオが書かれ、生徒会によって出された企画もしっかりと検討、指導されるが、そういった教員による組織はなく、あくまで生徒主体で運営されている。全部で 5 つもの委員会が結成され、洛西フェスティバルを始めから終わりまで生徒の手で作っていく過程で、先輩から後輩へと教えられ、受け継がれる部分が西乙訓高等学校高等学校より多いようである。そうした伝統が作られている以上、教員が毎年あらかじめシナリオを書いたり、チェックを入れる必要性は生じない。教員の手が入るか入らないか、というのが両校の大きな違いとなっている。

ここで、両校の学園祭の違いをまとめてみる。洛西フェスティバルでは、西乙祭に比べ、各クラスの出し物に力を注ぐ傾向が見られる。その分、生徒会企画には西乙祭ほど活発さは見られないが、各委員会、クラブの出し物数は多いところをみると、学園祭を盛り上げる役割を生徒会だけが担うのではなく広く分担しているようである。しかし、あくまでメインは各クラスの出し物である。そうした伝統を受け継いでいる中で、特に教員で構成される執行部は必要ないので存在しない。一方、西乙祭は教員による西乙祭実行委員会によりある程度お膳立てされた上で生徒会と文化委員が生徒の中心となって運営する。各クラスの出し物には洛西のそれほど力を注ぐ事はなく、その分、生徒会企画を充実させ、各クラスの出し物に加え、学園祭を盛上げる役目を果たしている。

自ら創作する、という作業に全校を挙げて力を注ぐ洛西フェスティバルと、教員によってある程度お膳立てされ、盛上げ役は安易に生徒会企画に頼る西乙祭。学園祭のあり方としては、洛西フェスティバルの方が活気があるといえよう。

3.4 地域に開かれた学校，洛西高等学校

洛西高等学校は、「地域に開かれた学校」という雰囲気があるという。洛西ニュータウンの住民たちが洛西高等学校を「洛西ニュータウンという地域の学校」として、おおらかに見守っている、という。それがよく表れている年間行事として、オープン文化祭と生徒会のボランティア活動が挙げられる。オープン文化祭は今年で11回目を迎えるが、学校内だけで行われる「文化の部」の成果を地域の人に見てもらったりして、地域の人との交流を図る場となっている。具体的には、「文化の部」での優秀作品の発表、吹奏楽部の演奏、コーラス部の演奏、書道部、華道部、物理部、イラストレーション部の作品の展示、インターアクトクラブの活動内容の発表、茶道部の茶席などが催される他、女子バレー部と地域のママさんバレークラブの試合、囲碁、将棋クラブと地域のお年よりチームの対局、など1日だけではあるが学校の催しとして、地域の人々を採り込んだものとなっている。

また、ボランティア活動としては、生徒会役員となった者は自動的にインターアクトクラブという、ボランティアを主な活動内容とするクラブに所属する義務を負う。具体的な活動としては、地域の祭に参加し手伝いをする、街の清掃、タイの貧しい地方にホームステイし、タイの人々と交流、文化祭の期間中にタイの子どもたちのための募金運動、足長育英会の募金に参加、交流の広場に参加、養護学校と交流する、など、その活動は多岐にわたっている。このように、洛西高等学校には積極的に学校の外でも活動しようという傾

向が見られるが、これは西乙訓高等学校には見られない点であり、洛西高等学校の特徴として、特筆しておくべきであろう。

3.5 両校のクラブ活動 【表 6 挿入】

両校のクラブ入部率はともに 70%である。洛西高等学校の方が 400 人ほど全校生徒数が多いこと、運動場の面積が洛西高等学校の方が広いことから、クラブ数や 1 つ 1 つのクラブの規模は自ずと洛西高等学校の方が大きくなるだろう、と予想していたのであるが、運動場の広さに比例するかと考えられた体育系のクラブの数と規模に関しては実はそれほど西乙訓高等学校と差がない事がわかった。体育系のクラブ数は洛西高等学校が 16 部、西乙訓高等学校は 15 部、両校どちらにもあるクラブの部員数を比較しても、10 人以上の差のあるクラブはほとんどない。実は、西乙訓高等学校のクラブに入部している全生徒数に対する、体育系クラブに所属する生徒数の割合は 76%、文化系に所属する生徒数の割合は 24%である。これに対して、洛西高等学校のクラブに入部している全生徒数に対する、体育系クラブに所属する生徒数の割合は 61%、文化系に所属する生徒数の割合は 39%である。洛西高等学校では、体育系クラブに所属する生徒数の全体に対する割合が西乙訓高等学校に比べ、低い事がわかる。したがって、洛西高等学校の文化系クラブの数は圧倒的に多く、それぞれのクラブの規模も西乙訓より大きい傾向にある。

次に試合が盛んに行われ、結果が比較しやすい体育系のクラブの試合結果をкаいつまんで比較してみる。両校の体育系のクラブは前述の通り、どれも人数の規模の差はほとんどないと言ってもよい。その上で両校どちらにもあるクラブの試合結果の比較をしてみると、私の予想を裏切って、概して西乙訓高等学校の方が良い結果を修めている。両校共に出場した試合の結果は表 6 の通りである。【表 7 挿入】

しかし、たとえ、両校に同じ種目のクラブがあったとしても、両校のクラブがいつも同じ競技で同じ大会に出ているとは限らない。そこで、数少ないのだが、同じ大会で、同じ種目に出ているものだけをкаいつまんで、どちらがよい成績を残したか比較してみた。あくまで同じ大会に出ているものだけではあるが、西乙訓高等学校のほうがいずれも良い結果を出している。両校共に同時に参加している試合結果が、全てのクラブの両校の差を代表しているとは思えないが、この結果の限りにおいては、西乙訓高等学校の体育系クラブの方が活気があると言えるだろう。しかし、どちらか 1 校にしかないクラブ、ソフトテニ

スクラブ（洛西のみ）、ラグビー部（洛西のみ）、体操部（洛西のみ）自転車部（西乙訓のみ）、弓道部（西乙訓のみ）ワンダーフォーゲル部（西乙訓のみ）、フェンシング部（西乙訓のみ）など数多くあり、また、同じ大会に出ていないため比較できない結果もたくさんある。さらに、文化系のクラブとなると、活動の成果がはっきりとした大会記録となって表れない場合がほとんどなので、比較が不可能になってくる。したがって、クラブ活動においてどちらが活気があるか、ということはここでは導き出せないと結論づけておく。

3.6 両校の生徒の人間関係の違い

西乙訓高等学校の生徒の人間関係における特徴は、洛西高等学校の生徒と比較して人付き合いが下手ということである。西乙訓高等学校は洛西高等学校に比べ、生徒の出身中学校の数が少ない。そこで、出身小学校や、中学校別の仲のいいグループを高校でも引きずる傾向が洛西高等学校より強いようだ。「だれだれは、同じ中学校（小学校）だったから」といった会話が高校に入学して久しい生徒の口からもよく聞かれるように、同じ小学校、同じ中学校という事を強く意識する。

休み時間や昼休み中にも教室の中で男女別のいくつかのグループにはっきりと別れて行動する様子がよく見られる。クラスの教室も類別に並んでおり、進路を強く意識させる学校でもあるので、類の違いが壁となっているのか、違う類間の交流もあまり見られない。以上のような、著しいグループ化の傾向が目立つようだ。洛西高等学校ではより広い範囲の中学校から生徒が集まっているためか、中学校や小学校の時の仲良しグループを高校でも引きずるということはほとんどない。クラスの教室も類別の順で並んでいないため、類間の区別なくクラス外の交流も比較的見られる。

また、西乙訓高等学校の生徒は学校で本音を出さず、学校での顔を作っているように見えると先生達は口々に言う。学校では周囲に心を許せない生徒が多いようである。不思議な事に、西乙訓高等学校では男女交際が皆無とっていいほど見られない、というのも独特である。生徒たちが精神的に開放されていない事を裏付ける要因であるといえるかもしれない。

このように、著しくグループ化し、学校で心を許せない生徒たちはまた、学校で自らの個性を発揮しない。互いの個性も認めようとしめない。したがって、西乙訓高等学校の生徒はみんな似たような感じになる。校則違反をするものは極めて少なく、学校に厳しく管理をされても反抗することはない。授業中の私語も目立たない。そんなまじめな生徒が多い

ようだ。

一方、洛西高等学校ではそんな西乙訓高等学校に比べて、生徒同士が異質なキャラクターに揉まれている。生徒の感心は様々であり、授業を全く聞いていない者もいれば、真面目な者もいる。行事に全く無関心な者もいれば、一生懸命な者もいる。個性を出していこう、という雰囲気がある、という。個性を出しつつ、同じような個性を持つもの同士でかたまったりする事なく、人とうまくやっていくところをみると、洛西高等学校の生徒は人付き合いがうまく、比較する西乙訓高等学校の生徒は人付き合いが全体的に下手であるようだ。

3.7 第3章まとめ

この章では、西乙訓高等学校と洛西高等学校を比較した時に特に顕著な違いとして見られるものをかいつまんで考察してみた。それをここで今一度、5つの項目にまとめてみる。

1. 学園祭の担い手として、西乙訓高等学校では教員が重要な位置にいるのに対して、洛西高等学校では、あくまで生徒主体である。
2. 学園祭において、西乙訓高等学校に比べ、洛西高等学校のほうが各クラスの出し物が競われ、完成度の高いものができる。
3. 西乙訓高等学校では、学園祭において生徒会が比較的大きな役割を担っているが、洛西高等学校では生徒会ばかりが担うのではなく広く分担している。
4. 洛西高等学校の方が学校外の地域との交流を図る場を多く持っている。
5. 洛西高等学校では、生徒がお互いの個性を認め、異質なキャラクターの中でうまくやっていくのに比べ、西乙訓高等学校は全体的に似通った感じの生徒で構成されていて、没個性的、排他的で、人付き合いが下手である。

この5つの項目を通して、西乙訓高等学校の生徒は洛西高等学校の生徒に比べ、生徒の動向に「覇気」がない、と言えるのではないだろうか。

4 学校の管理と生徒の自立

インタビューを進めるうちに、両校の雰囲気を大きく左右しているものとして、私の仮

説を裏切って、「地域の特性」ではなく、学校の管理のし方の違いと、生徒の自立度の差が大きく関わっている事がわかってきた。この章では両校のこの2点の差を述べていく。

4.1 学校の管理

西乙訓高等学校と洛西高等学校両方を経験した先生のインタビューで、どちらの学校が居やすかったか、という質問に対して、皆口をそろえて洛西高等学校の方が居やすかった、と答えた。その理由は西乙訓高等学校の方が、教師に対する管理が厳しいというものである。例えば、夏季、冬季、学期中の補習を担当する教師を決定する際、洛西高等学校ではどのクラスをどの期間誰が担当するか、という事は各教科の担当の先生の間で自由に決められるようになっていた。一方、西乙訓高等学校では補習の期間と、どのクラスをどの先生が担当するかは全て進路指導部によって決定され、指名された先生に選択の余地は全くない。また、授業の内容、指導のし方も各教科担当者同士の話し合いで細々と決められ、各先生独自の工夫を凝らすことはあまりできないそうだ。したがって、管理職と教師の関係は必ずしも良いと言えるものではないようである。その点、洛西高等学校では管理職と教師の仲は円滑であり、先生同士の仲も非常に良好だそうだ。

西乙訓高等学校はこのように、何でも確実に進めるためシステム化し、管理する姿勢が強いようだ。というのは、管理は何も学校から先生への管理だけではないのである。

学校は先生を管理する一方、生徒も強い管理下に置こうとしている。西乙訓高等学校では、生徒を「型」にはめようとしているような指導が目立つ。厳しくするポイントは「形」なのだ。例えば、頭髪、服装に対する取り締まりは厳しく、少しでも校則を違反していると、すぐに呼び出され、違反を止めるまで執拗に呼び出しを繰り返す。生徒の欠席も決められた回数によって呼び出して指導をする、というタイミングさえ全校統一で決められている。また、毎朝校門に教師が立ち、遅刻してきた生徒に点数を付けて把握し、決められた点数に達すると呼び出す、という「校門指導」も行われている。洛西高等学校では、この点、生徒指導についてそんなに細かく決め事を作らなくても良い、という風潮がある。服装や髪型に対する指導は、著しく違反する生徒には注意するが、西乙訓高等学校ほど徹底してはいず、いい加減なところさえある。また、生徒は自分で欠席日数を把握して、休んではいけない規定の日数と調整しているので、いちいち教師の指導は必要ない。また、あんまり厳しくすると保護者が怒鳴り込んでくるような事もあるそうだ。比較的、西乙訓

高等学校より、多くの中学校の出身者が集まっているため、ひとつの型にはまったやり方では通用しない、という声もある。生徒は、単調なつまらない授業だについてこない。先生は必然的に授業に独自の工夫を凝らさないといけない。

このようにしてみると、西乙訓高等学校は、洛西高等学校よりも学校側の管理がシステム化されており、生徒や、先生までも学校側の厳しい管理下に置かれていることがわかる。

4.2 生徒の自立

学校の管理が厳しいと、生徒は自ら考えて何かをしようとしなくなる。第3章で文化祭での両校の違いにおいても、「西乙祭実行委員会」によってシナリオをあらかじめ書かれる西乙祭と、執行部は全て生徒の委員会で組織され、自分たちで作ってきた伝統をもとに自分たちの手で運営する洛西フェスティバルでは、あきらかに生徒の学園祭に対してコミットする度合いが違っていた。西乙訓の生徒は「意欲」をもって取り組む、というよりは、上から言われて、責任感で動いている感は否めない。西乙訓高等学校の生徒会の先生はこう言っていた。「今年の西乙祭では生徒会企画が例年より盛り上がり大成功でしたが、これは先生がある程度お膳立てして、それに生徒をうまく乗せることができたからです。教師側の思惑通りにいったという感じです」。この言葉に表れているように先生は生徒を迅速に自分達の思惑通りに動かしたいがため、どんどん管理をシステム化して生徒への締め付けが強くなっていく。

それに対して、生徒は「指示待ち」化していく。これは、西乙訓高等学校を知る先生誰もが西乙訓高等学校の生徒の特徴を形容している言葉である。生徒は先生に与えてもらって当然という姿勢なのである。これが一番強く表れているのが、西乙訓高等学校の進路指導においてである。西乙訓高等学校のホームルームの時間は週一回1時間設けられているが、1年を通して実に半分以上のホームルームの時間を進路指導に充てている。洛西高等学校では進路指導は学期に1,2回で、もっとクラスで遊ぶ時間を設けているそう。そして、勉強にもそれ以外の行事にも力を入れられるように、それぞれの期間をきっちり決めて、期間内にはしっかり集中して取り組む、といったような、気持ちを切り替えられる指導をモットーにしている、という。進路についての面談の回数も西乙訓高等学校のほうが圧倒的に多く、学校生活において西乙訓高等学校の生徒の方が進路のプレッシャーを受けさせられる機会が多いようだ。学校の方針も、「現役で進路を決定させる事」を前面に押し

出している。

こういった徹底した進路指導に対し、西乙訓高等学校に入学してくる生徒は、「ここに来たら、進路指導がしっかりしているし、なんとかしてくれるだろう。」という意識の者が多いという。また、指示する側の先生と、指示を待ち、それに従う生徒というの立場の違いは上下の関係を生んでいる。西乙訓高等学校では先生が「上」、生徒が「下」という雰囲気強いそうだ。先生と生徒の関係がとてもフラットである洛西高等学校と比較すると、生徒はすれ違う先生の顔を見ず、また、先生に対して挨拶もしない、職員室にも近づこうとしない生徒が多い、という。

4.3 第4章のまとめ

西乙訓高等学校は、洛西高等学校に比べ、全体的に学校側の管理が厳しく、生徒が自立していない事が証明されたが、学校側の管理と生徒が自立しない現象は、相乗効果でどんどん深みにはまっていく。学校側が管理すれば、生徒は自立せず、自立を促すため管理を緩めると、学校は乱れていく。だから学校側は管理せざるを得ず、生徒はやはり自立しない。こうした悪循環が一度始めると、学校はもはや、管理を緩めるわけにはいなくなる。

では、西乙訓高等学校では、自立していないという生徒が先にたつて、管理が厳しくなったのか。もしくは、学校側の厳しい管理によって、もともと自立していた生徒さえも、また、もともと自立していなかった生徒はますます、入学後に自立しなくなったのか。私は当初、前者の説が正しいのではないかと思っていた。しかし、インタビューを採っていくにつれ、だんだん後者の説が有力である事がわかってきた。また、後者の説を裏付ける記述もある。『高校では、入学した高校にふさわしいパーソナリティや価値を内面化させる「社会化」の過程が準備されている。例えば、就職希望者の多い学校に入学した生徒はそこで進学に対する野心を冷却され、高校卒業後に就職する事が自分の当然の進路である事を納得するような社会科を受け、他方、進学校に進んだ生徒は大学進学への野心を鼓舞され、学習に関与するように方向付けられ、大学進学が当然の進路である事を納得するような社会化を受ける。そういった中で、各学校にふさわしい進路や、将来の展望、さらには自己評価の構造やライフスタイルまでも形成するようになる。さらにこの社会化は、中学校における、いわゆる輪切り選抜によって、より同質の生徒が集められる高校格差の中で強化される。地域社会に根強く存在する学校評価や、教師集団が持つ生徒の能力水準、相応の進路等に対する仮定が、強烈なラベルとして機能し、学校ごとに異なる社会化環境を

作り上げる』(清水 1985: 74-6). この記述をもとに考えると、生徒指導全般において、学校側の管理体制が厳しく、特に進路指導においては評判になるほどシステム化され、きちりとなされていた西乙訓高等学校に入学してきた生徒はみな、自主性をそがれ、自立しなくなっていく、ということになる。では、なぜ西乙訓高等学校の管理体制は洛西高等学校のそれより厳しくなっていたのか。次の章では、制度の移り変わりや両高等学校が設立された頃の時代背景をのべ、両校の管理体制の差の背景はどういったものだったのかを探っていきたい。

5 両校の管理体制を分けた政策的要因

西乙訓高等学校が開校したのは1984年、一方の洛西高等学校は1980年であり、両校の開校時期には4年のへだたりがある。インタビューで多数聞くことができたように、この4年の間に両校の管理制度に違いを生じさせた教育制度の改変があり、開校して20数年たった今でも学校の体制として根強く残っているのではないかと、という証言は果たして正しいのだろうか。もし、本当にそうなら、それは一体どのようなものだったのか。この章では、その頃の時代背景と教育制度の移り変わりが両校にどのように影響を及ぼしたと考えられるかを述べたい。

5.1 両校が開校した1980年までの流れ

両校が開校された1980年代前後は、非行、不登校、高校中退、いじめ、迫害などが全国の学校に蔓延し、戦後何回目かのピークを迎えていた時期だったようだ。しかし、この学校の荒れには長い歴史があった。「能力主義的再編の始まった1960年代からすでにひろまっていた」(中内ほか 1987:)。この1960年代から、1980年の両校開校当時までの社会情勢、およびそれに伴う教育政策の移り変わりを記しておく。まず、前述の1960年代の「能力主義」とは何か、また、「能力主義」の生まれた背景を簡潔に引用しておく。『1960年初頭、「所得倍増計画」がはなばなしく公表され、財政主導、輸出型の高度経済成長の時代が幕をあげた。すると教育政策においては、企業における職務遂行能力とそこでの秩序順応能力を中核とする人格の形成を強調する考え方、「能力主義」が1960年代後半から1970年代にかけて日本の教育界を支配するようになる。これは具体的には、能力、適性、関心、

社会的要請などにしたがって学校のあり方は多様なものであるべきだとする教育制度を理念とした，高等学校の種類の細分化および普通か内部の類型制やコース制の導入，すなわち，コースと学科の多様化となって表れた．これによって，個々の高等学校は中学校の進路指導と，選抜試験とによって能力別に厳しく振り分けられた生徒の入学する場となった』（黒崎 1995: 中内ほか 1987:）

こうした能力主義と，1960年代前半の高度経済成長の谷間の不景気の時代という社会的背景の中で，学校の荒れが加速する．『非行について見ると，戦後第2のピーク期は1960年の前半期で，非行の発生率は1000人あたり11人を超えた．また，不登校も1950年代校半から「学校恐怖症」として注目された．これらの中に，1970年代後半からの子供たちの学校への反乱と学校からの離脱の原型があった』．

これをうけ，1971年（昭和46年）に中央教育審議会（以下，中教審）によって戦後初めて教育制度の体系に手をふれる答申を発表した．この，昭和46年に発表されたので通称46答申は結果的に1980年代の再度の学校の荒れの直接的原因のひとつとなっていく．『46答申は，60年代能力主義政策を批判する立場にあったが，決して能力主義を放棄したものでなく，それを新しい能力主義に再編するものであった．「ゆとりの時間」と社会参加，社会奉仕との結合を強調し，学校は社会参加経験を評価の対象として位置付け，それを高校・大学の入学試験においても公務員・企業職員の採用試験においても資格要件として評価することを提案している．つまり，能力だけでなく，人格さえも選抜・選別の対象とする事が露骨に語られているのである．こうした能力主義の転換を推し進めたのは総合的な能力や創造性，さらにはヒューマンスキルや忠誠心をもったマンパワーを要求し始めた企業の労働力要請管理政策であった．こうした背景を持って登場した「ゆとり」の学校体制は，石油危機困窮の苛烈な労働者管理にあい呼応するかのようになり，行きのつまるような学校管理社会を作り出す事になった．その結果，学校はいまや学力形成を保証するものであるよりは，教育産業によって形成された学力や人格を評定・管理するものになっていったのである．この46答申とそれにつづく教育政策に対する子どもたちの反応は，学校に対する反抗，学校からの離反としてあらわれた．石油ショックをきっかけにしてふたたび上昇し，1977年から戦後最高を記録し，第3のピークに入ったと言われた．1981年には非行の発生率は1000人あたり18.7人と戦後最高を記録した．その後，1980年代前半にはいじめを苦にして生徒が自殺を図る事件が多発，校内暴力も1980年代には1558件におよび，前年の1208件をはるかに上回った．こうして，46答申から13年後の1984年，首相の諮問に

もとづいて教育改革の方針を審議する臨時教育審議会（通称「臨教審」）が発足した』（中内ほか 1987: 212-218）

この1984年からの「臨教審」による4次にわたる答申が、実は、両校の開校時期の間に位置する。そこで、インタビューで得た、両学校の管理体制の差は「旧制度の終わりの方の時期にできた学校と、新制度の初めの方の時期にできた学校」という違いから生まれたものではないか、という証言の中の、「新制度」とは「臨教審」の答申の事ではないかと考えられる。「臨教審」の答申が発表される前に開校した洛西高等学校と、後に開校した西乙訓高等学校は、この政策改革の影響を開校当時から受けているか、または開校してしばらくして受けたかによって、学校の管理体制を左右されたと考えられる。次にこの「臨教審」の答申について見ていくことにする。

5.2 「臨教審」による答申

主相直属の教育関係諮問機関である「臨教審」による答申が、文部大臣の諮問機関である「中教審」による46答申と大きく違う点は、『当時の内閣総理大臣、中曽根首相の推進している「臨調・行革路線」、その特徴は、公共部門を縮小し、それを民間資本に移し、国民は自力でそのサービスを買ったりまかなったりせよというものであるが、それを根底の原理として取り入れていることである』（深山ほか 1985: 26）。

自らの「臨調・行革路線」を教育改革にも浸透させたい当時の中曽根首相は、持論でもある「憲法改正論」を結びつけて、憲法第26条および、教育基本法第3条を解釈し直す事を選択した。『教育基本法第3条「国民は能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」の解釈をめぐる、「ひとしく、能力に応じて」とあるが、これまでは「ひとしく」ばかりを追求してきた。戦後教育が「教育の機会均等」を目指すあまり、「平等」の概念が強調されすぎ、個性の尊重、自律、自己責任というような「自由」の概念が軽視されてきたきらいがある。「能力に応じて」という規定こそ能力差に応じた多様な教育の正当性を主張しているのだ』（深山ほか 1985: 32, 大森 1987: 143）とした。したがって、「臨教審」の答申の中心スローガンは、「個性」の尊重と重視におかれた。しかし、これは『臨調・行革路線の中に位置付けられた「自由化」論が、教育学的には「個性重視」の原理を実現するものとして再構成され、一定の説得性をもって主張された』（深山 他 1985: p27）という事を意味する。要するに、教育現場に「臨調・行革路線」を浸透させるために、憲法の解釈をし直す事によって、それを正統化したのである。

こうして、「教育の自由化論」は、「生徒の個性に応じた」教育現場づくりとして、「選択の機会の拡大」を目指し、それまでの教育政策は国家の統制が強すぎ、教育の画一化につながっているとして、教育現場の「規制の緩和」を打ち出した。その政策は「競争原理を導入して、民間活力によって教育を活性化させる。子どもたち同士の競争ばかりでなく、学校、教師の間でもよりよい教育をめざして自由に競争できるような条件を作り出す。その結果、よい教育が普及し、悪い教育が姿を消していく」(大森 1987: 119)という考えによるものであるとした。

ここまでをまとめてみると、教育現場の「規制緩和」とそれに伴う「競争原理」の導入が、教育の荒廃の原因となった「教育の画一化」を否定して、「個性」を尊重する教育をもたらし、学校の荒廃を緩和する、としたのが「臨教審」の答申だったといえることができる。

5.3 「臨教審」による答申と学校現場

こうした「臨教審」の答申の中で、高等学校の教育現場においては、「高等学校は、多くの者が進学しその個性・能力等が異なる生徒に対して多様な教育の機会を提供し、それぞれの個性・能力等を伸張する役割をもつ。このため、各学校の個性化・特色化を推進すると共にそれらを配慮した入学選抜を行い、それぞれの学校の教育を受けるにふさわしい者を入学させることが強く望まれる(第3次答申)」(市川 1995: 238)として、それぞれに特色あるコースの設置を推進し、設置コースの多様化を図った。では、当時できたてだった「臨教審」態勢のもと、「普通科のみの設置で京都の公立高等学校屈指の進学校」という「個性」をたずさえ、晴れて開校した西乙訓高等学校で、はたして「個性」ある生徒が集まり、入学後その「個性」は伸ばされたと言えるだろうか。第3章で詳しく述べたが、個人のレベルにおいては他人の個性を認めようとしないうえ、したがって、個性を發揮しづらい雰囲気があるなど、とても生徒の個性が尊重されるような学校現場とは言えないようである。

そうした結果となった要因として、こんな記述がある。『臨教審の答申は「個性重視の原則」とは「個人の尊厳、個性の尊重、自由・自律、自己責任の原則」のことだといひ、さらに「個性とは、個人の個性のみならず、家庭、学校、地域、企業、国家、文化、時代の個性をも意味している」といっている。したがって、臨教審のいう「個性重視」は、一定の集団の個性に同調する事を要請されている「管理主義的個性」ともいべきものを、子どもたちに求めている、ともいえる』(浪本 1987: 168)ゆえに、「学校の個性化・特色化が、

必ずしも生徒の個性化をもたらすという保証はない。学校に特色を持たせ、そこに類似の能力や性格を有する生徒を集めて教育すれば、生徒の類型化は推進されるかもしれないが、必ずしも個性化が促進される事にはならない。」(市川 1995: 238)のである。

これは、学校内のクラス間においても同じ事がいえるのではないか。洛西高等学校では開校当初、「類型」制度がまだ導入されていなかった。その影響で、今も教室をはっきり類型ごとに分けて並べていないこともあり、西乙訓高等学校よりは違う類の生徒の間で交流が見られるのだそうだ。それに対して、「臨教審」以降、すぐに開校した西乙訓高等学校は開校当初から「類型」が存在し、それによって、カリキュラム、クラス、教室のある棟など、しっかりと分かれていた。そうすると、第3章でも述べたように、別の類間の交流はほとんどなく、したがって、みな自分のクラスにこもることになり、同じ類型のさらに同じクラスの人としか接さなくなる。こういった事も、他人の個性を認めない、個性を発揮し辛い雰囲気をつくっている要因の一つになっていると考えられる。その上でさらに前述のとおり、順位を争う「競争原理」を肯定しているのだから、西乙訓高等学校の生徒が「没个性的」で「排他的」、である理由の説明もつくわけである。

また、「臨教審」による「個性」という言葉でさえ、『答申に「個性・創造性」とか、「個性・能力等」と言う表現がくり返し出てくることから窺えるように、まるで個人の特性を意味する言葉として用いている』(市川 1995: 239)。つまり、臨教審は「個性」という言葉を「能力差」を置き換えた形で使っているのである。したがって、「個性」に応じた多様なコースの設置によって、また、同時に「競争の原理」を肯定する事によって、進学競争を否定している立場でありながら、実際は「学校はますます学力種別ごとの上下のランクによって細分化され、子どもを無限に序列化し、いっそう厳しい競争へとかりたてているのである」(深山 1985: 69)。

そして、この競争に耐え得る生徒の育成、また、それを指導する教師の資質向上を確実に図るため、教育政策による統制は臨教審以前より厳しいものになっているのである。

まず、「臨教審」は、「教師間の競争が極めて不完全なことが多様なニーズに対応し得ない教育の画一化・保守化、硬直化をもたらし、ひいては多様でユニークな能力の発見や創造性の開発を妨げてきた」(深山 1985: 198)としている。つまり、教師もまた、教育政策によって競争を強制されている。そして「教師のモラルを高め、教育に対する使命感を醸成していくためには、教師の能力、実績、情熱等を客観的に把握する、つまり教師の勤務評定の実現が必要だ、それは一般企業を見れば明らかだ」(深山 1985: 198)とし、それを

実現させるため、『各学校での責任体制と校長の指導力の確立』、そのための「校長の在職期間の長期化」、「優れた指導力を持つ若手教員の管理職登用の促進」、「校内の組織体制の見直しによる校長を中心とする責任体制の確立」、「校長の教員人事に対する意見具申の活用」など、一連の校長管理権限の強化策がうちだされることになる』（国民教育研究所編 1986:p71）。西乙訓高等学校では教員は管理職と必ずしもうまくいってはず、各教員同士の仲も洛西高等学校のそれほどは良くない、という事実は、こういった競争原理に基づいた、教育政策による教員に対する管理体制が原因となっていると考えられる。

また、そうした「教員資質向上」のための教育政策による統制として、「教育職員要請審議会の答申は、5年、10年、20年研修の実施、主任・教頭・校長研修、中央研修・長期研修の拡充など、現職研修の体系的整備を提案している」（市川 1995: 213）。さらに、最重要項目として挙げられているのが「初任者研修制度」の創設である。それは『新任教員に1年間の研修を義務付けて、そこで正式採用とするものである。この初任者研修制度は、一人ひとりの教員を一年間にわたってチェックし、臨教審の示す教育の「使命感」を養うために「校長のリーダーシップ」と指導教員のもとで、青年教師の教育の理念、目標、方法などすべての教育活動を権力の統制下におこうとするものにほかならない』（国民教育研究所編 1986: 9）。「臨教審」はこうした研修制度の強化で、教師を管理体制下におき、資質統制を図ったのである。こうして教師さえも『行政当局からの指示待ち先生族』（浪本 1987: 191）に変えられてしまったのである。

これらの研修制度は、京都府は全国に先駆けての実施を決定したため、その時期ちょうど新設校であった西乙訓高等学校は既存の他校と比べても力が入っていたのは想像に難くない。

このような厳しい管理統制下におかれ、細かい基準による評価の対象となった教師は、自らの属する高等学校の有する「個性」すなわち、特色ある「コース」にそぐうように生徒の行動を細かい基準を決めて、管理統制しようとする、いや、そうせざるをえない。これがまさに、西乙訓高等学校における生徒に対する教師の管理体制が体現しているそのものなのである。

おわりに

今回のテーマを選んだ一つの理由として、幼稚園の年長組の頃から、高校3年生までこの大山崎町、長岡京市を生活の中の行動範囲としていた私の性格の形成に、この土地に住

む学生に共通する「何か」が多大なる影響を及ぼしているのではないかと長年感じていたからであった。その「何か」は長い間ずっとはっきりしなかったが、この土地の学校をはなれ、予備校に通い、大学へと外に出ていくにつれ、確かに「何か」があると確信に近いものを感じ始めていたし、また、それに対する反発する心も芽生え、徐々に強くなっていった。つまり、それは、その「何か」に染まってたまるか、という心だった。今回の論文のテーマにするにあたって、その「何か」は一体何なのか、仮説を立ててみた。その正体は「覇気がない」という事じゃないかと。そして、その要因は「地域住民の特性」ではないかとした。結果的に他地域の高等学校との比較を経て、「覇気」は確かになかった。しかし、その要因は、「地域住民の特性」ではなく、大部分は予想外に「教育制度」であったのだ。しかも、その時々々の教育制度をどんなタイミングで受けるかによって、その影響は微妙なものだ。学校の設立当初の教育制度は後々の学校の性格までもに影響を及ぼしていたのである。そしてまた、各々の学校の性格が、その学校に通う生徒全体の体質を作り上げ、生徒個々人の性格をも規定する。生徒の性格は「教育制度」によってこれほどまでに作り上げられていくものである事を知り、改めて驚いた。それと共に、自らの性格に影響を及ぼした要因を明らかにすることは、自らの今まで知りえなかった側面を見つめさせてくれる事にもなった。そういう意味で今回の論文はさながら自己分析のようであり、自らで自らの性質をずばり指摘してひやっとさせたものだった。

これから学校という場を離れて、また全く新しい場所に踏み込んでいく。そして、今度はこの大学生生活をも振りかえって自己分析を繰り返すであろう。それを常に自らにフィードバックし、より良い自分作りに役立てていきたい。

[文献]

- 市川昭午，1995，『臨教審以後の教育改革』教育開発研究所。
大森和夫，1987，『臨時教育審議会3年間の記録』光書房。
国民教育研究所，1986，『今教育改革に問われているもの』。
川喜多二郎，1967，『発想法』中央公論社。
中内敏夫，竹内常一・中野光・藤岡貞彦，1987，『日本教育の戦後史』三省堂。
浪本勝年，1987，『現代教育政策の展開と動向』学陽書房。
深山正光，山科三郎，佐貫浩，1985，『臨教審答申をどう読むか』労働旬報社。

(40字×30行) 23頁 原稿用紙58枚

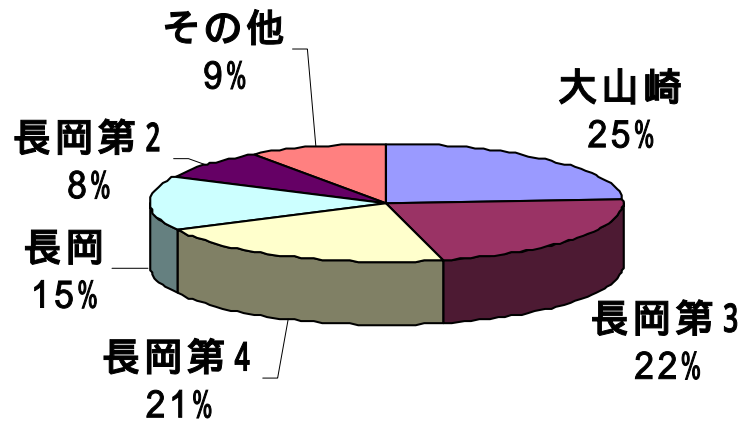


図1 西乙訓高校の全校生徒の出身中学校

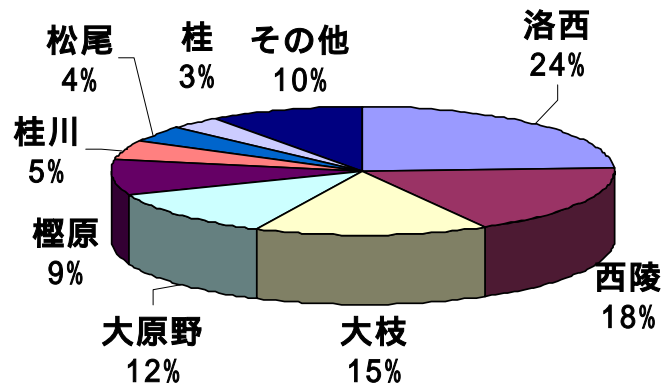


図2 洛西高校の全校生徒の出身中学校

表1 西乙訓高等学校の進路結果（平成13年度）

| | 国公立大学 | 私立大学 | 短期大学 | 専門学校 | 就職 | 合計 |
|--------|---|--|--|--|--|-----------|
| 人数（割合） | 52(18.5%) | 145(51.6%) | 37(13.2%) | 40(14.2%) | 7(0.2%) | 281(100%) |
| 主な進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ・京都大学 ・大阪大学 ・名古屋大学 ・神戸大学 ・京都工繊大学 ・京都府立大学 ・京都府医科大学 ・滋賀医科大学 ・大阪市立大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・同志社大学 ・立命館大学 ・関西大学 ・関西学院大学 ・京都産業大学 ・龍谷大学 ・近畿大学 ・甲南大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・京都女子短大 ・華頂女子短大 ・光華女子短大 ・成安造形短大 ・龍谷大短期 ・大阪薫英女子短期 ・関西外大短期 ・平安女学院短期 ・武庫川女子短期 | <ul style="list-style-type: none"> ・海上保安学校 ・京都中央看護専 ・京都医師看護専 ・京都保健福祉専 ・京都保健衛生専 ・近畿高等看護専 ・高津理容美容専 ・大阪ゲームデザイナー専 ・スクールオブミュージック | <ul style="list-style-type: none"> ・(株)わかさ生活 ・(株)四季 ・(株)車台ファーム ・明星自動車 ・乙訓消防組合 ・陸上自衛隊 | |

表2 洛西高等学校の進路結果（平成13年度）

| | 国公立大学 | 私立大学 | 短期大学 | 専門学校等 | 就職 | 合計 |
|-------|--|---|--|-----------|---|---|
| 人数 | 31(6.8%) | 257(56.0%) | 71(15.5%) | 81(17.6%) | 19(4.1%) | 459(100%) |
| 主な進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府立医科大学 ・ 京都府立大学 ・ 京都教育大学 ・ 京都工織大学 ・ 京都府立大学 ・ 大阪市立大学 ・ 大阪府立大学 ・ 滋賀大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 同志社大学 ・ 立命館大学 ・ 関西大学 ・ 関西学院大学 ・ 龍谷大学 ・ 京都産業大学 ・ 近畿大学 ・ 追手門学院大学 ・ 佛教大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都女子短期 ・ 関西外国語短期 ・ 平安女学院 ・ 成安造形短期 ・ 大谷短期 ・ 京都文教 ・ 大阪成蹊女子短期 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス ・ 公務員 ・ 製造 ・ 卸・小売 | <ul style="list-style-type: none"> ・ |

学校から先生への管理

西乙・学校が先生の指導の厳しさを管理する

普通級の授業も補習も工夫は感じられず淡々と行っていた

学習指導全般においてシステム化されている

先生に選択の余地があまりない

夏休み、学期中の補習の担当は生徒指導部から管理職と教師の仲が悪いとは言えない

洛西・先生への学校からの管理が比較的緩やか

先生は生徒に対して比較的自由な指導ができる

工夫を凝らした独自の指導方法を追及する

夏休みの補習の割り当ては教師に選択の余地がある

管理職と教師の仲が円滑

教師同士の仲も良い

新制度に移行してからの新設校

学校から生徒への管理

洛西・生徒に対する管理体制が比較的穏やか

厳しくする必要性があまりない 先生は授業に工夫を凝らす必要がある

生徒は欠席日数などで教えるのだから、先生の指導が入らなければいけません

あまり厳しく取り締まると保護者が怒鳴り込んできます

工夫を凝らし、独自の進め方など無難にしていて生徒に人気

自主性を育てようという意図がある

生徒指導についてそんな細かい決め事はないという雰囲気がある

服装、髪型などの取り締まりはそれほど厳しくなく、点検もいい加減

比較的多くの中学校出身の生徒で型にはまったりやりの方ではない

西乙・生徒に対する管理体制が厳しい

生徒を型にはめようとする

学校が厳しくするポイントは「形」

服装、髪型に関する取り締まりが厳しい

生徒の欠席回数によって呼び出しの回数もさっさと決まっている

専門指導実施（遅刻防止のため）

先生が生徒にここまでしかダメと線を引く

落ち着いた地域だから、さっさと引かないといけない、はしてあげないといけ

高校も中学校とあまり変わらない

図3：インタビュー結果の親和図（学校の管理）

西乙・なんでも先生主導

西乙・生徒が自立していない

生徒は先生の指示待ち

行事の取り組みを進めよう
「意欲」という言葉が重要

生徒は先生に与えられて
やるべきことが当たらぬ

西乙・行事両方
強化される
エネルギーを注ぎ
切る
より一層
指導

行事に注ぐエネルギーが少い

主要5教科以外の教科提出物を出さない
やるべきではない

LHRでは進捗調度の内容は学期に1、2回。よく進んでいく

主要5教科以外の教科にも一生涯懸命取り組む

洛西・先生と生徒の距離が近い

職員室によく生徒が来る

先生は生徒を迅速に自分たちの言うとおりに動かしたい

LHRは半分
以上が進路指導

本人の意思よりとにかく
環境で大学に合格させる
事が重要

進路指導で締めつけ
られている

主要5教科とそれ以外の教科への力の入れ方に歴然とした差を付ける

主要5教科以外の教科提出物の提出率が悪い

備忘冊が多い

行事は先生がほとんど
お膳立てをして、生徒をうまく兼せている

生徒と先生の立っている位置が違う。先生が上、生徒が下

西乙祭実行委員会が組織されており、全体の企画と役割分担シナリオの点検を行っている

盛り上げ役を生徒会が一手に引き持っている

西乙祭の主催生はほぼほとんどテレビ番組を真似たもの

行事の取り組みを進めるのは「意欲ではなく責任感」

先生によって文化祭の企画書、準備する物リストが異なる

行事で先輩から後輩へ引き継がれるものが少ない

最近はいよいよ加齢な生徒も物におだてられて行事になるとうまく頑張る

すれ違う先生の顔を
見ようとしていない

先生に対して挨拶をしない

生徒は職員室に近づこうとしない

生徒が好きな事をしていてという感じがする

行事など、先輩から後輩へと伝わる伝統が多い

3年生がすぐく責任を
持っている

行事はほとんど生徒会主導

文化祭に際して、特に教師側の組織はない

文化祭では、生徒会ばかりで、委員、部などで分担して盛り上げている

地域が洛西ニュータウンの高校と
いうからおおらかな目で見ている。比較的
大学のような雰囲気

体育祭、文化祭は全て点数化して激しく競い合う

文化祭の3年生の劇は超一流

文化祭は地域に開かれている

ボランティニアなど、校外の行事にも積極的に参加

行事での取り組みに慣れていない
しては教師の知らない進め方
とていく

図：4 インタビュー結果の親和図（生徒の自立）

個性の尊重

西乙・人付き合いが下手

学校では周囲に心を許せない 皆敵

生徒は学校で本音を出さない
生徒は学校での関わり方について
男女交際はほとんど見られない
西乙・人付き合いがうまい

西乙・個性を發揮しない

似た感じの生徒が多い

偏った色合いの子が入学してくる

真面目な子が多い

校則違反はほとんどない

授業中の私語はほとんどない
生徒がしよぼうもない授業をしていてもノートを開いてたまっている

悪しく管理してあげない
あまり文句を言わない

ある程度規則を守らされていっている

個性を認めない

先生が工夫して関わった授業をすすめていない

生徒間で何をやるにしても競争心を刺激し出すにすぎない

グループ化

西乙・出身中学校の同士のグループ化
西乙・小学校の時の仲良しグループを引継ぎつづる

出身中学校の種類が多い

出身地域での結束が強い

西乙・クラス間の交流がある

教室の並びが類型の順で並んでいない

乙訓地域はスポーツ少年会など盛ん

西乙・休み時間、教室内は男女別の仲の成り別れて行動する

西乙・クラス間の交流はほとんどない

文系理系で教室が別れている

種類ではつきりクラスが別れている

西乙・みんな個性をだしていいという雰囲気がある

生徒同士が異質なキャラクターに揉まれている

生徒の関心は様々である

授業を全く聞いていない子もいれば、真面目に聞く子もいる

行事に無関心でいる子もいれば一生懸命の子もいる

より多岐の中学校の出身者で構成されている

図：5 インタビュー結果の親和図（生徒の人間関係）

表3 生徒が主体となっていく年間行事と生徒会の役割（平成13年度～14年度）

| | 洛西 | 西乙訓 |
|-----------|---|--|
| 新入生歓迎会 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成について話し合う。 ・クラブ発表について各部長と打ち合わせ。 ・リハーサル ・当日の司会、運営 ・生徒会の出し物（1年生へのエールなど） 《生徒会以外》 ・有志によるバンド演奏、ダンス。 ・各クラブのアトラクション。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に渡す冊子作り（各クラブの紹介、勧誘ピラ） ・進行補助（進行は放送部） ・企画 ・受けつけ ・会場設営 ・生徒会自己紹介 ・1年生の担任の先生の紹介 《生徒会以外》 ・吹奏楽部の演奏 |
| 生徒総会 | <ul style="list-style-type: none"> ・前生徒会と新しい生徒会のそれぞれのまとめ。 ・計画、資料作り。 ・各委員長のまとめと今年の方針。 ・資料の印刷 ・当日の司会 ・どんな生徒会にするか、何を中心にしていくか話し合う。 ・予算組み（2月頃） ・議案書作り | <ul style="list-style-type: none"> ・後期生徒会活動総括 ・年間生徒会、及びインターアクト活動内容報告 ・前期生徒会活動方針 ・生徒会年会行事予定決定 ・生徒会会計決算報告 ・生徒会会計予算案 ・学校祭実施要項作り ・生徒総会用パンフレット作り ・生徒会会計予算案準備 |
| 総合体育大会壮行会 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会長による挨拶。 ・出場クラブの部長による決意の言葉。 | |
| 球技大会 | <p>種目はバレーボール。リーグ戦、決勝トーナメント。男子チーム、女子チーム、男女混合チームをそれぞれクラス内で作る。</p> <p>体育委員が中心。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスのチーム作り ・競技種目についてのアンケート | |

| | | |
|--------|--|--|
| | <p>生徒会は深入りせず。立案などは教師がやって、生徒会は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育委員の補助 ・ 当日の司会運営 ・ 集計 ・ 結果発表 | |
| 学園祭 | 別欄参照 | 別欄参照 |
| 学校公開 | 新入生への学校についての説明 | |
| 卒業式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文集作り ・ 記念品選び ・ CD-ROM 製作（コンピューター同好会に依頼） ・ 卒業生に花束贈呈 | 卒業生に花束を贈呈 |
| ボランティア | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会役員になると、必ずインターアクト部に入部しなければならない。 《以下、インターアクト部としての活動》 ・ 地域のお祭に参加、手伝い ・ 街の清掃 ・ タイの貧しい地方にホームステイ、観光、タイの人と交流。 ・ 文化祭の期間中にタイの子供たちの為に募金活動。 ・ (二万円ほど集まった) ・ 足長育英会の募金に参加 ・ 交流の広場(向ヶ丘養護学校と他の府立高校とのふれあいの場)への参加。 ・ インターアクト地区大会に参加 ・ 洛西ふれあい祭に参加 |

| | | |
|---------|--|---|
| オープン文化祭 | | <p>文化祭期間中（土曜日）に校内と学校外の会場を借り、文化祭での優秀クラスが発表を行って地域の人に見てもらおう。11年前から始まり、地域との交流を図るのが目的。先生主導で行われる。オープニングパレードから始まり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽部の演奏 ・コーラス部の演奏 ・美術部 ・書道部 ・華道部 ・物理部 ・イラストレーション部 ・インターアクトクラブ <p>等の作品展示、活動内容の発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道部の茶席 ・手話展示体験 ・講演 ・女子バレー部、ソフトテニス部、囲碁・将棋部の地元チームとの親善試合・対局 <p>生徒会の取り組みは受け付けのみ。</p> |
| その他 | | <ul style="list-style-type: none"> ・京都桂川ロータリークラブ例会に出席（年2回） |

表4 両校の学園祭の仕組み（平成14年度）

| | 西乙訓 | 洛西 |
|------------|------------|------------------------|
| 名称 | 西乙祭 | 洛西フェスティバル |
| 準備に取り組んだのは | 3ヶ月前から | 3ヶ月前から |
| 文化祭の期間 | 3日間 | 5日間(文化の部、体育の部、オープン文化祭) |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| <p>生徒会主催の出し物・取り組み</p> | <p>(事前の準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成 ・5月に全校生徒に企画のアンケート ・1学期に有志募集オーディション ・ニュース発行 ・生徒会企画で使う道具の買い出し。 ・竹燈籠(飾り付け)作り ・キャンプファイアーの組みたて ・フォークダンスの練習 ・くすだま作り <p>(当日の出し物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝探し ・友達尋ねて3千里 ・鬼ごっこ ・ビューティースチューデント ・アームレスリング ・未成年の主張 ・フォークダンス ・ ・花火 <p>(終了後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケート | <p>(事前の準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成 ・文化委員を召集、指示 ・ニュースで喉自慢出場者募集 ・買い出し <p>(当日の出し物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喉自慢大会 音楽の先生によって、審査、講評あり。1, 2, 3位まで表彰。 ・未成年の主張 ・オープン文化祭の受け付け ・花火 <p>(終了後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケート |
| <p>体育祭又は体育祭的出し物</p> | <p>体育祭的出し物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉番付け (腕立て・ストラックアウト・ゴムゴム引き引き・クラブ対抗リレー) | <p>体育祭 体育委員主催</p> |

| | 西乙訓 | 洛西 |
|----------|---|---|
| 生徒会の集会頻度 | 9月入ったら毎日 | 8月末から毎日 夏休みは週2回。 |
| 各委員会の出し物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア委員会 共同作業所の物品販売手 伝い。 ・ 図書委員会 しおりコンテスト 古本市 映画上映会 ・ 保健委員会 身体測定 体力測定 ・ 生活委員会 校門アーチ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健委員会 展示、イベント ・ 図書委員会 ビデオ上映 ・ 美化委員会 期間中の清掃 ・ 体育委員会 体育祭の運営、準備 競技決定 《競技種目》 障害物リレー 200メートル走 リレー 棒引き 騎馬戦 綱引き 100メートル走 クラス対抗リレー 色別対抗リレー 飴くい競争 |
| クラブの出し物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 天文部 展示 ・ 吹奏楽部 演奏 ・ 美術部 展示 ・ 写真部 展示 ・ 茶道部 野点 ・ 演劇部 舞台発表 ・ コンピューター同好会 プリクラ ・ 化学部 中夜祭で使用する花火の | <ul style="list-style-type: none"> ・ 吹奏楽部 演奏、ファンファーレ ・ 食べ研部 お菓子作り ・ イラストレーション部 展示、冊子配布 ・ 華道部 いけばな展示 ・ 茶道部 お茶席 ・ 書道部 作品展示 ・ 物理部 展示 ・ 写真部 作品展示 |

| | | |
|--|----------------------------------|--|
| | 作成。 ・弓道部 中夜祭のキャンプファイアーの点灯。 | ・軽音部 演奏 ・放送部 音響 ・美術部 アーチ作成 ・ESS クイズ大会 |
|--|----------------------------------|--|

| | 西乙訓 | 洛西 |
|------------|---|--|
| 文化祭執行部の仕組み | 各分掌一名ずつの教員による「西乙祭実行委員会」により、 ・スケジュール決定 ・中身の検討 ・各学年に原案を卸す がなされる ・生徒指導部により予算決定。 ・生徒会 | ・運営本部（生徒会） ・運営委員会（生徒） ・実行委員長「体育の部」 1名（生徒） 「文化の部」 1名（生徒） ・各色団長 ・文化委員（生徒会とクラス の間の連絡係） ・実行委員（クラスの中心 人物） ・生徒会担当顧問（教師） |
| 審査 | 教師、生徒各クラス1名からなる「審査委員会」によって審査。表彰あり。 | 「文化の部」、「体育の部」を通して団対抗、点数制、表彰あり。 |
| 競争 | クラス対抗 | 縦割りの団対抗（白団、赤団、黄団、紫団、青団。各団に団長あり。） |
| その他 | ・フォークダンス（中夜祭） ・キャンプファイアー（中夜祭） ・中夜祭の花火 ・有志発表 ・ガードマン（有志発表の際、怪我人が出ないように有志発表をする人によって構成された。） | ・漫談 未成年の主張の空き時間に一生徒によって行われた。 ・交友祭の花火 |
| パンフレット | 製本さた冊子。（予算157, | プリントを表紙にはさんだ |

| | | |
|----------------|--|--|
| | 500円) | もの。(予算100,000円) |
| 今年、省かれたもの | | 1年生の仮装行列で地域を行進。 |
| 今年から新しく企画されたもの | <ul style="list-style-type: none"> ・友達尋ねて3千里 ・鬼ごっこ ・ビューティースチューデント ・アームレスリング ・筋肉番付 | ・体育の部での入場行進 |
| 各学年の出し物 | 1年生・教室発表 2年生・演劇(体育館) 3年生・演劇(運動場) | 1年生・ショウアップ 2年生・教室発表 3年生・演劇(体育館) |
| P T Aの催し | ・模擬店(うどん、ホットドック、アイスクリーム、飲み物) | <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 ・喫茶室 ・制服リサイクル(育成委員会) ・手作り講座ガーデンスタイルアレンジ(教養文化委員会) ・売店(パン、おにぎり、アイスクリーム、ジュース) |

表5 洛西フェスティバル執行部

| 名称 | | 構成 | 任務 |
|--------|------|---------|--------------------------|
| 運営本部 | | 生徒会本部 | 洛西フェスティバルの総合指揮 |
| 実行委員会 | 文化の部 | 文化委員会 | 洛西フェスティバルの企画・運営 諸規定作成 |
| | 体育の部 | 体育委員会 | |
| 団運営委員会 | | 各HRから選出 | 各団の円滑な運営 各HR活動の指導 |
| HR委員会 | | HR委員会 | 実行委員会の補佐 HR活動の円滑化 |
| 各種委員会 | | 各種委員会 | 必要に応じて活動 |

表6 両校の部活動および試合結果（平成13年度）

| | 西乙訓 | 洛西 |
|---------|---|------------------------------------|
| 陸上競技部 | 男 18 名 女 12 名 計 30 名 ・ 京都府高校総体（男子 400m ハードル）第 4 位 ・ インターハイ府予選（男子 400m）優勝 （女子 3000m 競走）準優勝、第 3 位 ・ インターハイ近畿大会（男子 400m）第 3 位 （女子 3000m 競走）出場 ・ インターハイ（男子 400m）出場 ・ 京都府高校総体（男子 100m）第 8 位 （男子 1600m リレー）第 6 位 （女子 400m ハードル）第 6 位 （女子高飛び）第 6 位 | 男 16 名 女 16 名 マネージャー 4 名 計 36 名 |
| バトミントン部 | 男 4 名 女 13 名 計 17 名 | 男 16 名 女 38 名 |

| | | |
|---------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイ府予選 (男子団体)準優勝 (男子複)第3位 (女子団体)優勝 (女子複)優勝、第3位 (女子単)優勝、準優勝、第3位 ・インターハイ (女子単)2名 (女子複)出場 (女子団)ベスト16 ・全日本ジュニア府予選 (女子単)優勝 ・全日本ジュニア全国大会 出場決定 ・近畿大会 (男子団体)ベスト8 (女子団体)ベスト4 | <p>マネージャー1名 計56名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイ府予選 (男子団体)ベスト32 (女子団体)ベスト32 ・新人戦 (男子団体)ベスト16 (女子団体)ベスト8 |
| サッカー部 | <p>男50名 マネージャー4名 計54名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック優勝 ・新人大会府ベスト16 | <p>男50名 マネージャー3名 計53名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)2回戦敗退 (下級)2回戦敗退 ・全国高校総体府予選 ベスト32 |
| 野球部 | <p>男35名 マネージャー5名 計40名</p> | <p>男29名 マネージャー4名 計33名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校野球大会 1次戦ゾーン準優勝 |
| ハンドボール部 | <p>男9名 女7名 マネージャー2名 計18名</p> | <p>男9名 女5名 マネージャー2名 計16名</p> |
| バレーボール部 | <p>男9名 女18名 マネージャー2名 計29名 (男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季大会ベスト16 | <p>男0名 女13名 計13名 (女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季大会準優勝 ・京都府高校総体 |

| | | |
|-----------|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック準優勝 (女子) ・新人大会決勝トーナメント 出場 | <ul style="list-style-type: none"> (上級)優勝 (下級)第3位 |
| バスケットボール部 | <p>男 34 名 女 23 名 マネージャー 4 名 計 61 名</p> <p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック優勝 ・府立高校大会 第3位 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック優勝 ・インターハイ府予選 ベスト 16 ・新人大会府予選 ベスト 20 | <p>男 38 名 女 32 名 マネージャー 4 名 計 74 名</p> <p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック準優勝 (下級) ブロック準優勝 ・全国高校総大府予選 ベスト 16 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (上級)ブロック準優勝 (下級)ブロック優勝 |
| テニス部 | <p>男 41 名 女 32 名 計 73 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイ府予選 (女子複)ベスト 8 ・公立高校大会 (女子団)第3位 ・選抜大会府予選 (男子団)ベスト 16 | <p>男 48 名 女 46 名 計 94 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイ府予選 (女子単)ベスト 16 ・インターハイ府予選 (女子団体)ベスト 8 ・京都府高校総体(団体) ブロック準優勝 |
| ソフトテニス部 | | <p>男 19 名 女 16 名 計 35 名</p> <p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿高等学校選抜インドア 大会個人戦出場 |

| | | |
|---------|--|---|
| ラグビー部 | | <p>男 29 名 マネージャー 6 名 計 35 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校ラグビーフットボール大会京都府予選 ベスト 16 ・京都府高校総体ベスト 16 ・近畿高校ラグビーフットボール大会府予選 ブロックベスト 8 ・全国高等学校セブンスラグビーフットボール選手権大会府予選 ベスト 16 |
| ソフトボール部 | | <p>男 0 名 女 17 名 マネージャー 1 名 計 18 名</p> |
| 自転車部 | <p>男 2 名 女 0 名 計 2 名 ・新人戦 (1km タイムトライアル個人) 第 5 位</p> | |
| 卓球部 | <p>男 13 名 女 8 名 計 21 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿大会 (男子団体) 出場 ・インターハイ府予選 (男子複) 第 9 位 ・京都府高校卓球選手権大会 (男子団) ベスト 8 ・新人大会府予選 (男子団) 出場 | <p>男 5 名 女 0 名 計 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校卓球選手権大会 (男子団) ベスト 16 ・京都府高校総体 (上級) ベスト 8 (下級) ベスト 16 |
| 弓道部 | <p>男 28 名 女 33 名 計 61 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (男子団体) 第 3 位 (女子個人) 第 7 位 ・インターハイ府予選 (男子団体) 第 3 位 (男子個人) 準優勝 (女子個人) 優勝 (男子個人、女子個人) 出場 | |

| | | |
|-----------|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・近畿大会京都府予選 (女子団体)優勝 ・近畿大会出場 | |
| 剣道部 | 男 15 名 女 5 名 計 20 名 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総体 (男子団、女子団)ベスト 16 ・府立高校大会 (女子個人)第 3 位 | 男 14 名 女 12 名 マネージャー 5 名 計 31 名 |
| 柔道部 | 男 4 名 女 0 名 計 4 名 | 男 7 名 女 3 名 計 10 名 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府公立高校柔道大会 団体 1 部 3 位 ・京都府高校総体 2 回戦敗退 |
| ワンダーフォーゲル | 男 5 名 女 2 名 計 7 名 | |
| フェンシング | 男 5 名 女 2 名 計 7 名 | |
| 体操部 | | 男 6 名 女 15 名 マネージャー 1 名 計 22 名 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高校総合体育大会 女子チーム選手権第 3 位 ・インターハイ府予選 女子チーム選手権第 5 位 ・京都府体操競技新人選手 権大会(女子チーム第 2 位) ・京都府民総合体育大会体 操競技選手権大会 (1 年生の部) 段違い平行棒/第 5 位 床/第 5 位 (2 年生の部) 段違い平行棒/第 4 位 段違い平行棒/第 6 位 平均台/優勝 床/第 5 位 |
| 空手道部 | | 男 5 名 女 13 名 マネージャー 1 名 計 19 名 |

| | | |
|------|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高等学校空手道秋季大会 (女子団体組手) 3位 |
| 吹奏楽部 | <p>男 1 名 女 45 名 計 46 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府吹奏楽コンクール銀賞 | <p>男 17 名 女 92 名 計 109 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府吹奏楽コンクール金賞 ・京都府マーティングフェスティバル京都府大会参加 ・マーティングバンド関西大会参加 ・近畿総合文化祭マーティング部門参加 ・いきいきミュージックフェスタ in 大枝参加 |
| 軽音楽部 | | 男 38 名 女 17 名 計 55 名 |
| 演劇部 | <p>男 6 名 女 11 名 計 17 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高等学校演劇大会府下大会出場 | <p>男 0 名 女 11 名 計 11 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第四回冬の演劇まつり(優秀演技賞) |
| 美術部 | <p>男 0 名 女 11 名 計 11 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高等学校総合文化祭出品 | <p>男 2 名 女 3 名 計 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での展示や日常の描画活動 |
| 茶道部 | 男 1 名 女 21 名 計 22 名 | 男 2 名 女 5 名 計 7 名 |
| 写真部 | <p>男 0 名 女 8 名 計 8 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿高等学校総合文化祭出品 | 男 3 名 女 32 名 計 35 名 |
| 天文部 | <p>男 6 名 女 9 名 計 15 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生天体観測ネットワークに参加、高校生、教員理科研究発表会において「しし座流星群の観測について」発表 | <p>男 2 名 女 24 名 計 26 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間観測(4月27日に本校屋上で実施) ・ペルセウス座流星群観測(8月12日本校屋上) ・夏季合宿(8月15-17日, 西はりま天文台公園) |

| | | |
|------------|---------------------------------------|---|
| ESS | 男0名 女8名 計8名 ・英語ビデオの上映 ・AETとの交流会 | |
| 文芸部 | 男6名 女9名 計15名 ・文の甲子園出品 | |
| 化学部 | 男3名 女0名 | |
| 書道部 | | 男0名 女13名 計13名 ・段取得のための課題練習 ・全日本高校大学生書道展の作品製作 |
| 食べ物研究会 | | 男7名 女8名 計15名 |
| 物理部 | | 男0名 女3名 計3名 ・ロボットの作成 |
| 華道部 | | 男0名 女5名 計5名 |
| イラストレーション部 | | 男1名 女18名 計19名 ・新入生歓迎会・生徒総会のパンフレット表紙作成 |
| 放送部 | | 男2名 女5名 計7名 ・毎日昼休みの音楽放送 |
| 生物部 | | 男2名 女3名 計5名 ・洛西ニュータウンのコンシアカツバメの生育調査(3年目) ・セミの抜け殻による自然度調査に参加 |
| コーラス部 | | 男0名 女16名 計16名 ・京都府連盟合唱祭小アンサンブルコンテスト(最優秀賞) ・NHK学校音楽コンクール(銅賞) |

| | | |
|------------|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・京都府合唱連盟合唱コンテスト(銀賞) ・近畿総合文化祭 ・京都府合唱連盟中学校高校合同クリスマスコンサート |
| 囲碁部 | | 男4名 女3名 計7名 <ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校囲碁選手権京都府下大会(女子団体戦)優勝 ・全国大会出場 |
| インターアクトクラブ | | 男2名 女14名 計16名 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者との日帰り旅行 ・タイ王国への海外研修 ・向日が丘養護学校「交流のひろば」参加(吹奏楽部他) ・洛西ふれあい祭り参加 ・学校周辺の清掃活動 |

表7 両校ともに参加した体育系クラブの試合結果 ¹⁾

| | 西乙訓 | 洛西 |
|-------------------------------|---------------|---------|
| バトミントン インターハイ府予選 (男子団体) | ○ (準優勝) | (ベスト32) |
| バトミントン インターハイ府予選 (女子団体) | ○ (優勝) | (ベスト32) |
| サッカー 京都府高校総体 上級 | ○ (ブロック優勝) | (2回戦敗退) |

| | | |
|-------------------------------|---------------|-----------|
| バスケットボール 京都府高校総体 男子(上級) | ○ (ブロック優勝) | (ブロック準優勝) |
| バスケットボール 京都府高校総体 女子(上級) | ○ (ブロック優勝) | (ブロック準優勝) |
| テニス インターハイ府予選 | (ベスト8) | (ベスト8) |
| 卓球 京都府高校卓球選手権大会 (男子団体) | ○ (ベスト8) | (ベスト16) |

【注】1) 試合結果の良かった方に を付してある。また、 は引き分けである。